善光寺平用水の形成過程と維持管理に関する研究

平成 28 年 2 月　安井　聡史

要旨

目的

裾花川の流路の変更，用水の不足による水争い，水争いを解消するための改良事業といった歴史的背景をもつ現在の善光寺平用水は，都市部を通り下流域の農地へ灌漑するといった全国的に珍しい水路形態である．善光寺平用水のとくに都市部での形成過程と現状を明らかにすることを目的とする．

方法

文献資料の調査，現地踏査，長野県および長野市でのヒアリング調査，土地改良区でのヒアリング調査などを通して，善光寺平用水の形成過程と現状を調べ，とくに中心市街地における用水路の維持管理における課題を考察する．

結論

農業者が作り上げてきた歴史的背景のある善光寺平用水は，[1]大正時代に農業者のものであった用水路が国有地となり，現在は権利を国から長野市に譲与している形になっている，[2]農業者の減少・高齢化に伴い，土地改良区での管理が困難となっている，[3]現在，長野市は用水路を都市排水に利用しているが，新たな整備を行っていない，[4]過去に一部の親水性事業が行われたが，中心市街地内ではほとんどが暗渠化されており，地域住民に認識されていないなどが明らかになった．

土地改良区・長野市・長野県が連携して利用・用途別に用水路を維持管理する必要がある．また，中心市街地においては，農業の用途だけではなく地域景観形成の役割も担っており，都市部における多用途の利活用が望める地域資源として位置づけることができる．

指導教員　藤居　良夫　准教授